

平成 2 7 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 2 7 年 4 月～平成 2 8 年 3 月

1. 学校概要

学校名 石巻市立鮎川小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒986-2523
宮城県石巻市鮎川浜清崎山 1 - 1

E-mail elsayukcl@ishinomaki.lg.jp

Website http://www.mediaship.ne.jp/~elsayuk/index/index.htm

児童生徒数 男子 15 名 女子 11 名 合計 26 名
児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

「国際理解教育」12月1日実施

本年度、本校職員がJICAを通しパラグアイの国を視察することができた。そのときに学んだ「世界で活躍する日本人達」や「青年海外協力隊の仕事」そして、「パラグアイの文化と教育」について5・6年生に伝える授業を行った。何のために活動しているのかを伝えられる中で、自分たちも東日本大震災で被災し様々な物資をもらった経験がある子どもたちは、本校職員が話した「魚をあげるのではなく、魚を釣る技術を教える」という言葉に感銘を受けていた。一時的な支援ではなく、その後も続いて命を守っていく大切な仕事であることを学ぶとともに、「自分たちの生活がいかに豊かなのか、物を大切にしていな

「防災教育」通年実施

みやぎ防災教育推進協力校として宮城県より研究の指定を受けて取り組んでいる。これまでの本校の防災教育のあり方を見直し、「防災教育副読本」を活用した教育の方向性を模索する年となった。

平成23年度よりの取組テーマ、「体にしみ込んだ訓練」を防災教育副読本からの知識と密接に繋がった体験活動の設定を通して実践している。防災教育副読本の知識を教える防災の時間は、業前活動の時間ではあるが毎月11日前後の日に設定して学んでいる。

「自分の命を自分で守る」ことができる子どもたちを育てるために、学校での学習だけではなく、「家から逃げる訓練」や「地域で遊んでいるときの避難訓練」も実施してきた。

学校が中心となって学校防災教育連絡会（地域防災連絡会）を立ち上げ、子どもを守るのは地域の方々であることを提案し続けている。子どもを守ることができれば、その保護者や祖父母、関連する人たち全員の命を危険にさらすことが無くなると考え、学校以外での子どもの命の守り方を地域とともに模索している。

「伝統文化」通年実施

平成23年度の6年生が立ち上げた「牡鹿復興太鼓」を5・6年生が引き継ぎ、地域を元気にするためにと、地元でのイベントで演奏したり、仮設住宅や老人ホームを回って演奏したりしている。

7月5日には、石巻市青年会議所の招待により石巻市の住吉神社にて青年会議所宮城県大会のオープニング演奏を行ったり、熊本県秀岳館高等学校のふれ愛まつりで演奏を行ったりと、地元鮎川だけでなく様々な地域で演奏を行うことができた。元気にするためとご支援への感謝の意味を込めて演奏を続けている。

また、本校では「七福神舞」も地域の方々から教えられ、1年生～4年生の子どもたちが学んでいる。踊りだけではなく口上や太鼓も教えられ、自分たちで全てをまかなえるまでになってきている。

鮎川の伝統文化を味わわせ、1人でも伝統文化の継承に将来携わる子どもができればと考えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（毎月11日前後の業前活動10分を防災の時間として実施）

1. 本校の研究

主題

自ら判断し、自分の命を自分で守ることができる子どもの育成
～副読本の活用を中心とした防災教育の推進を通して～

目指す子ども像

- 【自助】 自分の身は自分で守る
- 【共助】 助け合い・共に生きる
- 【公助】 公の支援と備え



石巻市立鮎川小学校の防災教育！

3. 防災の時間は知識重視

防災の時間指導案（略案）

NO.9

学 年	第5・6学年	実施日	平成28年2月15日（月）	指導時間	10分
題材名	第5章3. 災害時の情報収集（P46～47）				
目 標	災害時には、震源地や津波に関する情報を早く入手することがその後の対応に役立つことを理解する。また、伝言ダイヤルが安否確認の方法に有効であることを理解する。【知識】				
副読本の活用	副読本P46のグラフを提示し、災害発生時に情報手段としてラジオが有効であることをとらえさせると共に、P47の伝言ダイヤルの資料を使い、使用方法について理解させる。				
準備物	防災ノート 手回し充電式のラジオ				

【指導過程】	主な学習活動	教師の実践と留意点
1 地震が起きたときの震源の情報などいっもどこから入手しているか確かめる。		○テレビやインターネットで情報を収集していることを確かめ、大規模災害により停電が発生し、テレビやインターネットが使用できない時は、どうすべきか本時の課題について考える必要感を高める。
2 災害が起きた時に、どんな情報をどのような手段で入手すべきかについて考える。 (1) どんな情報を入手する必要があるか考える。		○副読本P46の資料を参考に、今いる場所の安全が確保されているのについての情報を得ることが大切であることを伝えさせる。 ・津波は来るのか ・どこに避難すればいいのか。 ・今いる場所は安全なのか。
(2) どんな方法で入手できるのか。		○東日本大震災時の担任の経験談を話し、情報入手の手順を確認ししておくこと大切さも合わせて指導する。手回しの充電機のないラジオを提示し、災害時に活用できるものを用意することの大切さを理解させる。

毎月11日前後の業前の時間に10分「防災の時間」を設定しています。副読本を活用しての知識を身につける時間です。防災ノートに感想を書き、学びを振り返られるようにしています。

2. みやぎ防災教育副読本を活用した年間指導計画

防災教育年間指導計画 1・2年生

低・中・高学年に分け作成

目指す子ども像

【自助】～自分の身は自分で守る～ (知)学校設置を中心とした身近な場所における防災に関する知識をもっている (行)身近な場所において避難行動への判断ができる。 (行)落ち着いて素早く行動する	【共助】～助け合い・共に生きる～ (知)震源・震度等の情報や被害を減らすことと大切であることを知っている	【公助】～公の支援と備え～ (知)学校にある防災の設備について知っている
--	---	---

防災教育年間指導計画 3・4年生

目指す子ども像

【自助】～自分の身は自分で守る～ (知)地震における防災に関する知識を持っている。 (行)身の周りの状況を理解し、避難行動への判断ができる。 (行)落ち着いて素早く行動する	【共助】～助け合い・共に生きる～ (知)自分たちが周りの人たちのためにできることを知っている。 (行)自分たちができることを率先して行う	【公助】～公の支援と備え～ (知)地域や学校・県にある防災の設備や知識を知っている。
---	--	---

防災教育年間指導計画 5・6年生

目指す子ども像

【自助】～自分の身は自分で守る～ (知)防災に関するより多くの知識をもっている (行)身の周りの状況を主体的に把握し、避難行動への判断ができる (行)落ち着いて素早く行動する	【共助】～助け合い・共に生きる～ (知)自分たちが周りの人たちのために何をすればいいのかを知っている (行)状況に応じて、自分たちができることを考えることができる (行)自分たちができることを率先して行う	【公助】～公の支援と備え～ (知)災害時の国や県、各種機関からの様々な支援や、その働きについて知っている (行)杜撰な副読本の誤謬や地域へ地方を伝えるとともに、各方面からの支援に感謝の気持ちを表す
--	---	--

副読本單元名・おもしろい(○)

時 間	教科	副読本	評 定	行 動	行 事・発表 No.	備 考
4 1	防災の時間	【第1章】1. 東日本大震災を振り返る ○「命の大切さ」「命」「避難行動の大げさ」等、随所の状況の状況を恐れ、後世に語り継ぐ大切さを理解する	知識 評価	行動	No. 1	○教材との関連・他の副読本
2	学級活動	【第2章】2. 地震のしくみ ○新編国土・防災マップと地震のしくみ。地震が起る仕組みと鮎川では三陸沖で起る地震が多いこととその他の被害を理解する。 (P47の防災教育資料)	知識 評価	行動		○6年級防災委員が取り組む大活

3. 防災の時間は知識重視

4. 教科の防災教育は体験重視

逃げ地図作り

合同避難訓練・研修

引渡し訓練

遊び場所からの避難

下校時の避難訓練

仮設住宅の方や地域の方・PTA・関係機関・大学との連携により、JR山の体験を行うことができました。